

オリジナル試験 日本史総合 50分 100点

1. 次の文章 A~J は、古代・中世・近世に活躍した人物に関する文章である。以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。
- A. この人物は、人臣で初めて摂政になった。娘を文徳天皇に嫁がせ、その間に生まれた皇子が後に（ 1 ）天皇として即位した。①承和の変を経て、②太政大臣に就任し、その翌年には（1）天皇の即位に伴い事実上の摂政に就任した。その後、（ 2 ）を機に（ 3 ）・紀豊城らを流罪にし、権力強化を進めていった。
- B. この人物は、鎌倉幕府の討幕に大きく貢献した人物である。もともと天台座主であったが、父の（ 4 ）が笠置山で捕らえられて以降、還俗した。討幕後には③征夷大將軍に就任した。しかしその後、④中先代の乱の混乱に乗じて、足利直義に謀殺された。
- C. この人物は、日本三悪人の一人である（ 5 ）の皇位就任を阻止したことで大隅に配流された経験をもつ。しかし、（5）が下野薬師寺に左遷された後、復帰し平安遷都の進言などで活躍した。なお、姉である（ 6 ）は孤児養育において活躍した。
- D. この人物は、室町幕府の將軍である。（ 7 ）の死後、くじ引きで將軍就任が決まった。彼は、万人恐怖の専制政治を行ったが、播磨守護の（ 8 ）に暗殺された。
- E. この人物は、大化の改新に伴って天皇に就任した。改新中に皇太子の（ 9 ）と対立し、しばらくして難波宮で死去した。彼の死後は、かつての皇極天皇が齐明天皇として（ 10 ）した。
- F. この人物は、「米將軍」と俗に呼ばれている。彼の時代、国内財政が非常に悪化していたことから、儉約・新田開発・年貢増徴などの制作を行った。
- G. この人物は朝鮮出兵の際に大きく活躍した。（ 11 ）とともに朝鮮で指揮を執った。帰国後は⑤関ヶ原の戦いで西軍として戦うも敗れて刑死した。なお、彼はキリシタン大名であった。
- H. この人物は、鎌倉幕府の執権である。後鳥羽上皇との（ 12 ）に勝利した後に執権に就任した。彼は⑥連署・評定衆の設置、日本最初の武家法である（ 13 ）の制定などを行った。
- I. この人物は、父の（ 14 ）と一緒に東北で起こった前九年合戦を平定した。その後、⑦鎮守府將軍に就任し、その後に起こった清原氏の内紛である（ 15 ）を平定した。
- J. この人物は、天武天皇の孫である。百万町歩開墾計画、三世一身法など土地政策を打ち出した。しかし、729年に謀反の疑いをかけられ、一族とともに自殺した。

- (1)文章中の空欄 1~15 に適当な語句を入れなさい。ただし 10 は漢字 2 字である。
- (2)傍線部①について、この事件で失脚した人物を 2 人答えよ。
- (3)傍線部②に関連して、武士で初めて太政大臣になった人物は誰か。また、武士で 2 番目に太政大臣になった人物は誰か
- (4)傍線部③について、797 年に初めて征夷大將軍に就任した人物は誰か
- (5)傍線部④について、中先代の乱を起こしたのは誰か
- (6)傍線部⑤について、関ヶ原の戦いの西軍大將は誰か
- (7)傍線部⑥について、鎌倉幕府の初代連署は誰か
- (8)傍線部⑦について、鎮守府が最初に置かれた城は何か。また、その城を設置したのは誰か
- (9)A~J の人物名をすべて漢字で答えなさい
- (10)A~J の人物について、活躍した時代順に並べ、A~J のアルファベットで答えなさい。

2. 次の A～L の文章は、歴史上で日本と関わった国々についての文章である。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

- A. この国は秦末の争乱を経て成立した国である。この国について記述した歴史書には、日本に関する内容が初めて登場する。この国の皇帝である武帝は、朝鮮半島に (1) を設置した。日本はここから中国に朝貢していたようだ。
- B. この国は、俗に「三国時代」と言われる時代を形成した 1 国である。7 世紀に、他の 2 国を滅ぼし①「三国時代」を終わらせた。その際に起こった (2) の戦いで、日本を破っている。これ以降の日本は国内政治に専念するようになった。その後、日本はこの国を従属国扱いしたことで関係が悪化した。
- C. この国は、倭の五王が朝貢した国である。倭王武は、この国の王から (A) に任命された。
- D. この国は、五代十国時代の後に成立した。②平氏政権・鎌倉幕府は、この国との貿易を積極的に進めた。
- E. この国は、1429 年に統一された王朝である。もともと北山・中山・南山に分立していたが、中山王の (3) が統一した。首都は首里に置かれ、外港は (4) であった。なお、首都に築かれた首里城は 2019 年に火災で焼失し、現在は再建に向けて沖縄県などが動いている。
- F. この国は、靺鞨族の大祚榮によって建国された。中国東北地方や朝鮮半島北部を支配した。727 年以降、日本と盛んに交易するようになった。日本では、この国の遣使を厚遇するために、③大宰府と平安京に (5)、能登に (6)、越前に (7) を設置した。
- G. この国は漢民族の王朝である。この国では海禁政策がとられ、交易を冊封関係を前提とする諸国の王との朝貢貿易のみに限定した。この国の建国と同じ年に将軍に就任した (8) は「日本国王源道義」として中国皇帝に認められた。
- H. この国は朝鮮半島に成立した王朝である。もともと文人政権であったが、12 世紀後半には武人政権となった。後に中国王朝に征服され、(9) の乱で抵抗するも、鎮圧された。その後は日本遠征に協力したが、14 世紀になって倭寇の侵入に悩まされるようになる。
- I. この国は、日本が朝貢した国である。両国の記録によると、日本は 4 回朝貢した。2 回目の朝貢では、(10) の怒りを買ったようだが、日本の遣使は答礼使の (11) とともに帰国した。
- J. この国には、歴史的には珍しく日本を襲撃した国である。しかし、暴風雨などにより日本遠征を断念した。しばらく後、日本は寺院建築費用を得るため、この国に (12) 船・(13) 船を派遣した。
- K. この国は、邪馬台国が朝貢した国である。記録によれば、邪馬台国の女王 (14) が「(15)」として認められ、金印紫綬を授かった。
- L. この国は、日本が遣使を送った国である。遣使の代表的人物に阿倍仲麻呂がいるが、彼は帰国を果たせずこの国で客死した。なお、この国の均田制・律令制は日本の国家整備の参考になった。

(1)文章中の空欄 1～15 に適切な語句を入れなさい

(2)文章中の空欄 A に適切な語句を漢字 5 字で記せ。

(3)傍線部①について、三国時代を形成した他の 2 国を答えなさい。

(4)傍線部②について、平氏政権のうち北面の武士に任命されたのは誰か

(5)傍線部③に関連して、11 世紀初頭に太宰権帥として刀伊の入寇を撃退した人物は誰か

(6)A～L の国名を答えなさい

(7)A～L のうち、中国の王朝は 8 つある、その 8 王朝を選び、成立した順番をアルファベットで答えよ。

3. 文章を読んであとの問いに答えなさい

歴史意識は時代とともに移り変わり、それが歴史記述の在り方にも影響してきた。有力豪族や天皇家は、古くからそれぞれの氏神や祖先についての伝承を持っていた。政治的統一が進むにつれ、それらの一部は神話にまとめられた。8世紀前半に成立した『古事記』はその序文によれば、天皇家の系譜を記した『(1)』と神話・伝承などを記した『(2)』をもとにしてできたという。

統一国家形成への志向は、①日本国家の成立・発展を顧みようとする気運を生じた。そのような情勢下で修史事業は幾多の曲折を経て、②『古事記』と『日本書紀』となって結実した。その後、③『日本書紀』のあとに続く国史の編纂が行われたが、律令国家の衰退とともに国家による修史事業は断絶してしまった。そののち、菅原道真によって、これらの官撰史書を神祇・帝王・政理などの事項別に分類されて編年順にまとめられた『(3)』が編まれた。

貴族政治が興隆してくると、国家の歴史よりも宮廷の中での貴族の言動や事件、宮廷行事などが重視されるようになる。そして、物語文学の発展に影響されて、日本語で歴史の流れを物語る新しい歴史叙述が生まれた。『(4)』はその代表作で、若侍夏山繁樹と老人の大宅世嗣との対話形式によって (5) を中心とする④撰関家の栄華の経緯を記したものである。その辛辣な史論は歴史物語の白眉と言われる。これに続いて公家の立場からの歴史物語が書き継がれていくが、この一連の歴史物語は南北朝時代に完成したと推定される『(6)』をもって終わりを告げる。

また、古代末期に台頭した武士の活躍を反映して、⑤合戦の記録を中心とした新しい文芸が発達した。12世紀末期の動乱を経て古代から中世への激しい社会変動を体験した人々の中に、世の変遷、つまり歴史の展開の真相を見極めようと思案する者も出てきた。世の移行の根底に理法を見出し、動乱の世情に対処すべき生き方を考えた特色ある歴史書が現れてきたのである。他方で、動乱の中から新しく台頭してきた武家政権である鎌倉幕府も、やがて自らに関する文書・記録を整理して、武家政権成立の歴史を顧みる『(7)』を編纂した。

モンゴル軍の襲来は日本の社会に様々な影響を及ぼした。それまで仏教発祥の地であるインドとそれを普及・発展させた中国を中心に考える傾向が強かった僧侶の間にも、民族意識に似た感情を呼び起こし、日本への⑥仏教伝来以降の歴史をまとめる僧侶も現れた。さらに南北朝時代の動乱の中で、⑦北畠親房によって神話以来の日本歴史を叙述して南朝の正当性を主張する書が著された。それは神国思想が背景となっているとともに、仏教的な歴史観から脱却して、⑧儒教的な立場から論を展開している点でも注目すべきものである。

江戸時代、将軍徳川家光の時に林羅山に命じて史書の編纂が始められた。羅山の子鶯峰に至って完成したのが『(8)』である。これは300巻を超える膨大な編年体の史書であるが、斬新さには乏しかった。水戸藩の徳川光圀も修史事業を企て、江戸小石川の藩邸に (9) を設け、史書の編纂に着手した。この史書は、神功皇后を歴代の数に入れず、壬申の乱に関連して近江王朝の (10) の即位を認め、南朝を正統とするなど従来の史書と異なる特色を持っている。山鹿素行は『武家事記』を著すのに古文書を用い、歴史研究に新しい方法を導入した。当時の合理主義的傾向を受けて歴史叙述の上で⑨注目すべき業績を上げたのは新井白石であった。

(1)文章中の空欄1~10に適切な語句を入れなさい。

(2)傍線部①について、最初に国史編纂を計画したとされる人物は聖徳太子である。この人物が編纂したとされる歴史書を2つ答えなさい。なお、これらの大部分は645年に焼失した。

(3)傍線部②について、『古事記』編纂の中心になった人物は誰か

(4)傍線部③について、『日本書紀』のあとに続く国史を六国史というが、残りの5つの歴史書をすべて答えなさい。また、最後の歴史書完成時の天皇を答えなさい。

(5)傍線部④について、撰関家の藤原氏北家は、後に分かれて五撰家と言われるようになった。この五撰家をすべて答えなさい。

(6)傍線部⑤について、10世紀前半に起こった戦乱を記述した作品は何か

オリジナル試験 日本史総合 解答用紙 _____ 点

1.(1)1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____

6 _____ 7 _____ 8 _____ 9 _____ 10 _____

11 _____ 12 _____ 13 _____ 14 _____ 15 _____

(2) _____ . _____ (3) _____ . _____

(4) _____ (5) _____ (6) _____ (7) _____ (8) _____

(9)A _____ B _____ C _____ D _____ E _____

F _____ G _____ H _____ I _____ J _____

(10) → → → → → → → → →

2.(1)1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____

6 _____ 7 _____ 8 _____ 9 _____ 10 _____

11 _____ 12 _____ 13 _____ 14 _____ 15 _____

(2) _____ (3) _____ . _____ (4) _____ (5) _____

(6)A _____ B _____ C _____ D _____ E _____

F _____ G _____ H _____ I _____ J _____

K _____ L _____

(7) → → → → → → →

